土曜日の朝は、大地でいっしょに汗をかこう！

見沼田圃で米作りに挑戦している「見沼代保全倶楽部」からのメッセージ

さいたま市の自然資源、その代表といえば、美しい水田や畑、植木畑が広がる「見沼田圃（みぬまたんぼ）」。全体面積、約1260ヘクタールのほとんどがさいたま市に属し、市の面積の約7％を占めています。ところが今、農地の減少・荒れ地化が急速に進んでいるというのです。「このままでは田圃も大地の水も消えてしまう」との危機感から、米作りを通じて見沼の自然を守ろうと呼びかけているのが「見沼代保全倶楽部（みぬまだいほぜんくらぶ）」です。活動を続ける市民グループの皆さんからの熱いメッセージをお届けします。

田園地帯の緑と水を守りたい

田圃がなくなれば農業用水は不要になって、農地や大地を潤してきた水を失います。そうなればそこに生息していた生き物たちもいなくなり、私たちの癒しの場も失われます。見沼代用水はさいたま市を潤す水でもあり、この田圃と水を後世に残したい。そのために活動しています。

「おいしい空気と土と生き物たちに触れてみたくなったら、いつでもご連絡ください。どなたでも大歓迎。できれば作業に参加してほしい。楽しみが倍増ですから」

（代表・藤原悌子さん・浦和区在住）

田圃ってどうやってつくるの？

見沼田圃の再生を目的に、はじめは二反七畝（たんせ）（27アール）の土地でスタート。農地法により一般市民の耕作は認められないため、援農（えんのう）の形で進め、昨年は3つの田圃（七反に拡大）で無農薬を目指しつつ、有機肥料栽培の米作りに挑戦しています。

メンバーは約50人。みんな都市住民で農業の経験はまったくありません。しかもほとんど初対面。それでも仲間になっていくから不思議です。長く休耕した田圃では水がなかなかたまってくれず、田植えができないというアクシデントにも遭遇。

「埼玉クボタ」の皆さんが最新トラクターで応援に駆けつけてくれたこともありました。すべて初めての体験で、その都度途方に暮れますが、笑いが絶えたことはありません。

people x people

people×peopleコーナーは、まちづくり活動の情報交換の場です。このコーナーへの掲載を希望される団体または個人の方は、さいたま市都市総務課（TEL：829-1394）までお問い合わせください。

「農業者になるのが夢でした。定年で時間の余裕ができ、ついつい田圃に出向いてしまう。やるならおいしい米をたくさん作りたいんです」

（緑区在住・稲垣武俊さん）

何もかも忘れて草刈りをする時間が楽しい

活動は毎週土曜日。夏は朝8時、春・秋は9時集合。畔道（あぜみち）にずらりと車が並ぶ光景は、いかにも市民活動という感じです。

全体の2割の方が女性で、仕事や家事のストレスを発散できる場にもなっています。

「年寄りを抱えていると、気分が運動不足になりがち。土曜の田圃作業は体もほぐれて、いい気分転換になります。草と土の匂いが体中に行きわたってホッとする。また、明日からも頑張れそう！、なんてネ」

（浦和区在住・豊田あきこさん）

やっと自然のサイクルがわかってきた

6月に田植えをすると、7月には立派な水田に。カモが泳ぎ、ツバメが飛来し、ヨシキリのさえずりもにぎやか。土と水と太陽が生き物を育むことをメンバーは実感しています。そしてトンボが飛び交うなか、小さな白い米の花が咲くと、ひと月もすれば収穫の時期。

「コンバインを初めて自分で動かした時は、うれしかったですね。自分でお米を収穫する喜びを体験し、日本のアイデンティティはやっぱり米作りにあるんだと気づかされた思いです」

（緑区在住・岡辺重雄さん）

好きなことでまちづくりに参加できたら、こんなに楽しいことはありません。皆さんも探してみませんか。

「見沼代保全倶楽部」では賛助会員を募集しています。

詳しくは、NPO法人「水のフォルム」事務局（豊田・藤原さん）まで。

TEL：834-0187

http://www.w-forum.jp

※見沼代保全倶楽部は藤原さんが理事長を務めるNPO法人「水のフォルム」の会員が幹事会員となって運営しています。

「people×people」は、人と人が出会う交差点。さいたま市でまちづくりに取り組んでいる人々からのメッセージを伝えるページです。「まちづくりに関わることは、自分の暮らしに新しい発見や充足感をもたらすこと」と気づかせてくれる人々が登場します。